

# 園だより

令和元年 5 月 1 日

社会福祉法人 新田保育園

園長 野村陽子

新入園の子どもたちも進級の子どもたちも、少しずつ新しい生活に慣れてきたようです。しかし、本当に新しい環境に慣れ、安心して保育園生活を送るのはまだまだ 3~6 ヶ月先です。あせらず、一歩ずつ。皆で歩んで参りましょう。

実際の園だよりでは、ドイツの教育学者の幼少期の体験が、とても重要であるという文章を掲載してあります。

この言葉の通り、子どもは全身を大きな眼のようにして、印象を感じ取り身体に容れます。その印象は子の一生を通じ、子の知恵・力となるのか。もしくはその逆となり足を引っ張ってしまうのか。私たち大人が子どもに残せるものは、お金や物ではありません。目に見えない愛情。形の残らない体験。

先日小学 6 年生の卒園保護者達と会食をした時、「保育園時代は忙しかったけど、子育てで 1 番楽しかった。」と皆さんおっしゃっていました。保護者の皆さま、毎日お忙しいとは思いますが、今。この時。大切になさってください。小学 6 年生になった我が子は、手を繋ごうとした母の手を払いのけるそうですよ。

さて、4 月 19 日父母会総会（保護者の会・春の集い）が開催されました。春の集いでは、新しい提案が出されております。欠席された方は配布済みの資料をご覧ください。今回の提案に対して、会員である皆さんの意見を事務所前設置の「保護者の会・ポスト」に投かんしてほしいというお話もありました。広く皆さんの意見を取り入れて、より良い保護者の会を皆さんの力で創ることができたら素敵です。保護者の皆さまには、それぞれのお仕事の専門性があります。異業種のプロが集まって、子どもの為に力を合わせる。これほどの強みはありません。知恵を結集すれば、保護者の会の進むべき道が見えてくるのではないのでしょうか。

実際の園だよりでは、児童精神科医の親と子のしあわせについての言葉を掲載しています

保護者の会での活動を通して、保護者の皆さんがしあわせになりますように。新田保育園は子どももしあわせ。保護者もしあわせ。職員もしあわせ。そんな保育園だったら良いな。しあわせってなんでしょう。ほかほかして、ふわふわして、甘いものかしら。それぞれ思うことは違うけれど、新田保育園はみんなで作ってきた、みんなの保育園です。それは今後も変わりません。さあ、令和が始まります。皆で創りましょう。これからも。